

～がんばってますか～

VOL.19 組合長です!



阿部組合長みずからが現場に出向き、組合員のみなさんとの膝を交えた対談で農業の今や地域の声、JAへの「直言」をお聞きしてエールを送ります!

(相蘇) どうぞ、種なしのブドウ「ピオーネ」です。

(組合長) ひとつごちそうになります。おいしいですね。粒が大きくて立派なブドウです。

(相蘇) 孫に食べさせようと思いい作り始めました。育苗ハウスに6本定植して3年になります。9月には黒く色づき、糖度は18度を超え出来は上々です。「シャインマスカット」の苗木も植えています。

(組合長) この上青沢地区の標高はどのくらいですか。

(相蘇) 近くの山で約600m、地区周辺では100m前後だと思います。

(組合長) 中山間地と言いますが、果樹は風があまり吹かず、昼夜の寒暖差があればあるほど良い条件とされています。

(相蘇) そうですね。また月山周辺で「月山筍」と言われている、いわゆる根曲がり竹を、上青沢の水田で栽培しています。

JA管内には遊佐から松山まで中山間地が続いていますが、根曲がり竹に限らず、ワラビやゼンマイなど、中山間地に適する作物はあるはず。これら山菜類を産地交付金の対象作物に入れてもらうと、私も含め中山間地の生産者は非常に良いと思います。

(組合長) 水稲だけで所得を増やすには面積拡大が一つの選択ですが、中山間地はのり面が広い分、労力が必要です。生産者の方々は、裏山や畑があるわけなので、上手く利用できた方が良いですね。

(相蘇) これから日本海沿岸東北自動車道(日道)が繋がります。



交流人口が増える見通しがあります。山菜を奨励した上で、それに対応した大きい産直施設を作るなどの構想を持つべきです。**(組合長)** 庄内は食材の宝庫なので活かしていきたいですね。ここに吊るしてあるのは、今年

の「はえぬき」ですか。昨年比で10

あります。県では「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」の3本柱で販売戦略を持っています。経営面はどうしていますか。**(相蘇)** 個人経営です。息子は建設会社で技術職をしています。**(組合長)** そうなると、相蘇さんの技術は誰に受け継がれるのですか。

今月の直言 【八幡・上青沢】

相蘇 信一 さん (文中 相蘇)

相蘇信一さんは昭和24年生まれ。水田面積は約6.5ha。内、はえぬき3.9ha、加工用米1.7ha、山菜などの他、ブドウ「ピオーネ」を育苗ハウスで栽培。酒田市上青沢で奥さんと2人暮らし。大沢第5生産組合長として活躍しています。

(相蘇) 頭が痛いところです。日頃考えていることは、これからはJAが若い職員を20〜30人採用して、JA職員が農産物を栽培、販売する体制を作ることが良いのではないかと思います。そうすれば、一部かもしれないが地域に若い人を定着させることができます。JAからはそういうことを考えてもらいたいです。

(組合長) 管内では、平成30年産「雪若丸」を約99haで計画しています。粒が大きく、食味はあつさり上品な味わいで申し分

(組合長) 「長ねぎ生産拡大推進事業」では、作業員を雇い除や掘り取りなどの作業をJAが受託していますが、農作業全般を対象に仮定すると、どのような形が良いのか、なかなか容易ではないと思います。

(相蘇) 地区でも後継者が少なくなりました。所得が上がれば若い後継者が育つと思うのですが、そのためには必要か。生産者は良い物を作り、販売網を確立する必要があります。

(組合長) 所得が500万円欲しいとなれば、何をどのくらい栽培してどう収入を得るか、そこから考えることが大切です。

販売網は長年付き合いのある商社や卸、市場があり大丈夫ですが、近年は米も園芸も引き合い

が強く、農産物が足りない状況です。それにしても相変わらずエネルギーシユですね。私も良い刺激をいただきました。